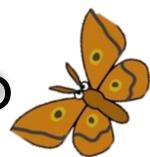


# 営農ウィークリーNEWS

## 黄色LEDライトによる



## ヤガ類被害防除技術のご紹介

オオタバコガなどのヤガ類の幼虫は、ナスやネギなど、夏から秋にかけて多くの農産物に被害を及ぼすことで知られています。

ヤガ類の成虫が、農作物の葉に卵を産み、孵化した幼虫は農作物の果実を食害します。

品質低下の大きな要因にもなるヤガ類は、近年の温暖化等により、以前より早い6月頃から被害が見られ、終齢期の幼虫になると、薬剤の効果が鈍くなることもあるため防除が難しくなっています。物理的な防除と併用することにより、防除効果を高めることができます。

黄色LEDライトは、従来の黄色蛍光灯と同様、夜間にライトを圃場に向け照らし、夜に活動するヤガ類に昼間だと勘違いさせることで、農作物に寄り付かなくなり（忌避効果）、圃場内の繁殖行動を抑える効果が期待できる資材です。



ヤガ類によるナスの食害の様子



黄色LEDライト  
照度調査の様子



黄色LEDライト

黄色LEDライト  
設置圃場の様子



2018年に、京都乙訓農業改良普及センターとJAが乙訓地域のナス栽培圃場に、黄色LEDライトを設置し調査した結果、対照区と比べ、ヤガ類の一種オオタバコガの被害を大きく抑える結果となりました。

LEDのため消費電力が少なく、12Vのバッテリーで点灯させることができます。また、ソーラーパネルでバッテリーを充電しながら使用することができるので、設置圃場を選びません（交流電源のある圃場でも設置できます）。導入経費・光熱費が従来の黄色蛍光灯に比べ、約40%抑えることができるなど、良い結果があげられました。

京おくら出荷開始!

TAC information



順調に生育（6/16撮影）



2021年産「京おくら」の出荷がはじまりました!

今年は、生産者18名、栽培面積50aで取り組みます。

例年になく早い梅雨入りなど、栽培環境は厳しいですが、関係機関と協力し安定生産・出荷ができるよう生産者の皆様をしっかりとサポートしていきたいと思っております。

# ～おいしいお米生産をめざして～ 水稻栽培・水管理と追肥のポイント

令和3年6月 京都乙訓農業改良普及センター

## ◆6～8月の天気予想と管理のポイント

- ・6月の平均気温は、平年並み～高めで、今年は何雨入りがかなり早く、平年に比べ曇りや雨の日が多くなる予報です。
- 水を溜めっぱなしにせず、根が酸素を吸える状態にしましょう！
- ・7月の気温はほぼ平年並みで、前半は平年と同様に曇りや雨の日が多く、後半は、平年と同様に晴れの日が多くなる予報です。
- ・また、8月の気温はほぼ平年並みで、平年と同様に晴れの日が多くなる予報です。
- 7・8月は中干しや追肥によって、高温を乗り切れる強い稲を作りましょう！

## ◆田植直後～収穫までの水管理について

田植え直後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田植後の植傷みを防ぎ、保温効果を高めて根を活着させるため、深水状態（5～6cm）を保ちましょう。</li> </ul>
田植え後約14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根の活着後は浅水管理（3～4cm）に切り替え、水温を上昇させて生育を促進しましょう。</li> </ul>
田植え後約30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落水した後、間断かんがいを行って根に酸素を送り込み、分げつを促進しましょう。</li> <li>・基数を1株18～20本前後確保したら、中干しに入ります。</li> <li>※深水すぎると、雑草は生えませんが、分げつ数が少なくなります。</li> </ul>
中干し (田植え後約35～40日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土中で発生するガスを除去し、土中に酸素を送り込み健全な根を作るため、落水してほ場に浅い亀裂が生じる程度に約1週間乾かしましょう。</li> <li>・中干しができていないと根が傷み、生育不良に繋がるため、確実に行いましょう。</li> <li>※ほ場に大きな亀裂が生じるほど長期間の落水を行うと、根が切断されるため注意しましょう。</li> </ul>
穂ばらみ期まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2～3日おきに間断かんがいをを行い、根の活力を維持しましょう。</li> <li>・出穂25日前には葉色をしっかり確認し、追肥を行いましょう。</li> </ul>
穂ばらみ期 (出穂14～7日前) ～出穂期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水を最も必要とする時期です。必ず湛水状態を保ち、開花を促進させましょう。</li> </ul>

登熟期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出穂後20日を目安に落水し、間断かんがい(もしくはひたひた水)で管理し、登熟歩合を高めます。夜温が高いと登熟不良となるため可能なおところは夜間に入水するなど、稲の負担を軽くしましょう。</li> <li>・稲は、出穂後には新根が出ません。根が腐ると水とチッソしか吸収できなくなり、タンパク含量が上がって食味が低下します。</li> <li>・葉の活動に必要なリンが吸収されなため葉の活動が低下し、登熟や収量も低下します。出穂以降は適切な水管理を行い、根の活力維持に努めましょう。</li> </ul>
収穫直前 (出穂30日後頃) (収穫5～7日前)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出穂後30日頃を目安に、落水します。</li> <li>・落水が早過ぎると根の活力を低下させ、著しく品質が低下して胴割れなどが発生します。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>米は出穂後最初の1週間で開花・受精 一次の1週間で玄米の長さが決まる 一次の1週間で玄米の幅が決まる →最後の1週間で厚みが決まる</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械作業に支障を来さない程度に、土に湿り気のある状態を最後まで保ちましょう。</li> </ul>

## ◆補植用苗の処分

補植用苗を水田に置いたままにすると、いもち病の発生源となる可能性があります。補植作業が終わる次第、水田から取り出し、処分しましょう。

## ◆ガス（硫化水素）が発生していませんか？

田の中を歩いたときに、土中からブクブクとガス（気泡）が出るようならば、一旦落水してガスを抜き、新しい水と入れ替えましょう。  
下葉が黄化する、赤褐色の小斑点がでるといった症状が目立つ場合は、ガスがわいて根が傷んでいる可能性があります。水の入れ替えだけでは改善しない可能性があるため、落水して1～2日置き、軽く田を干しましょう。  
※除草剤の効果は切れるため、雑草が発生した場合は中期除草剤の施用を行いましょう。  
根傷みはその後の生長に大きな影響を及ぼします。早めの対応を心がけましょう。

## ◆中干し後のケイ酸肥料活用

- ・稲はケイ酸を吸収すると葉が固くなり、根張りもよくなります。そのため「いもち病」等の病害や倒伏に強くなります。
- ・葉が固くなると受光体制がよくなるため、光合成が活発化し、登熟が高まります。
- ・蒸散作用が活発化し、葉の温度が下がりが高温ストレスを和らげ、乳心白粒の発生を軽減します。
- ・ケイ酸資材を秋または春に施用していない場合は、中干し終了時（6月下旬～7月上旬）にケイカル（60 kg/10a）またはけい酸加里（40 kg/10a）を散布しましょう。